

グローバル探究ライフ

コンフォートゾーンから飛び出すことで、学校生活ではできない出会いや体験ができるのが留学。
その経験者たちに、リアルな留学ライフと気持ちの変化について語ってもらうシリーズです！

File No.22



鎌田南美さん (17歳)
致道館高校 (山形・県立)

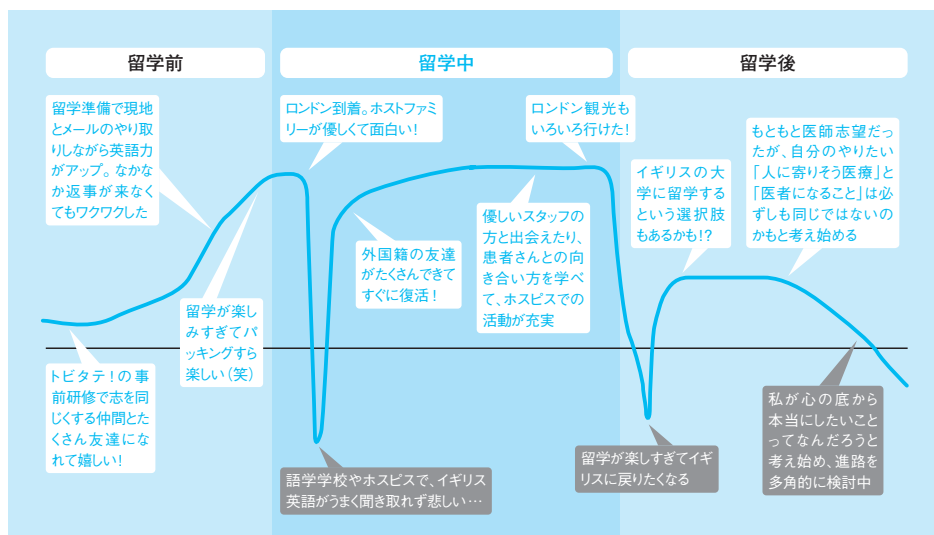
両親の影響で、幼少期から医療関係に興味があった。患者の痛みや心に寄り添う「緩和ケア」や、高齢者のフレイル（要介護未満の虚弱状態）について中学時代から自主的に研究している。将来は緩和ケアに携わる医療従事者を目指し、さまざまな選択肢から検討中の高校3年生。

留学は勇気を出しやすい環境
ぜひチャレンジしてほしい

医療関係の仕事をする両親の影響で、重
病の患者さんやご家族の体と心のつらさを和
らげる「緩和ケア」に興味をもっています。
また、「コロナ禍で高齢者の地域との交流が減
り、社会的フレイルを加速させているのでは
と、中学生の頃から地域でアンケートを取っ
て分析するなど自主研究していました。緩和
ケアと社会的フレイルを結びつけ、人生の最
期を豊かにする「人とのつながり」につい
て緩和ケアの発祥地・イギリスで学びたいと
思いトビタテに応募しました。

トビタテ合格後に奨学金の手続きに膨大
な書類の提出が必要でしたが、学校の担当の
先生が関連書類を丁寧に読み込んで手伝っ
てくれてとてもありがたかったです。

留学中は自分で何でもやらねばならず、
勇気を出さざるを得ない環境だったことで、
対応力や判断力が身につく、視野も一気に
広がりました。多角的に物事を見るためにも
日頃からニュースを見て、社会への解像度を上
げておく留学が一層充実すると思います。



DATA

【留学した年齢】

16歳

【留学した国】

イギリス

【留学期間】

2年生の7月から23日間

【留学内容】

イギリスのホスピスで緩和医療を学ぶ

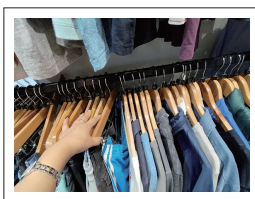
【留学しようとおもったキッカケ】

幼少期から英語を学び海外に興味をもっていたところ、父が「トビタテ! 留学JAPAN 日本代表プログラム」を教えてくれた。

*「トビタテ! 留学JAPAN 日本代表プログラム」(以下、文中では「トビタテ!」)とは文部科学省が官民協働で留学促進を展開するキャンペーンによる留学支援制度。



国による英語の訛りの違いで聞き取りに苦労。友達と話すのは楽しかった!



ホスピスが運営するチャリティショップでボランティアとして店員も経験。

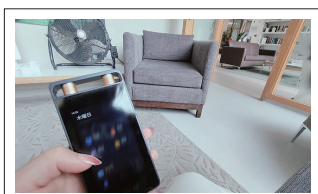
ロンドンでは地下鉄などに迷いながらも勇気を出して周りの人に尋ねて解決。勇気の大切さを実感しました。



さまざまな国からの留学生たちと仲良くなった!



ロンドンの象徴、公衆電話ボックス



ホスピスでの活動中は、専門用語が多いので録音しながらドクターやスタッフの話を聞きました。



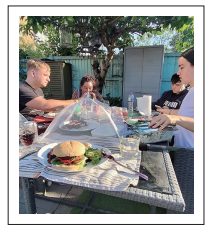
ホスピスのランチはガーデンで。サンドイッチとカットメロンがお気に入り。



セント・ポール大聖堂にも行ってみた!



ホストファミリーのために抹茶パフェを作るはずが生クリームを分離させてしまい、急遽抹茶ラテに(笑)。



優しく迎えてくれたホストファミリーとの最後の食事。帰国したくないほど楽しかった。